

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

佐々木 恵

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

既に平成24年～25年度科学研究費補助金(若手B)に、研究課題「精神的不適應の予防・早期介入における促進・阻害要因の検討」を申請済みであり、これにより、学長(重点)インセンティブ研究費も獲得している。本研究課題は、うつ病や不安障害などの予防・早期介入を実現するために、精神医療や臨床心理学的な支援などのメンタルヘルス・サービス利用における、促進・阻害要因について明らかにするものである。本研究課題の遂行により、精神的不適應の予防・早期介入に必要な手立てが明らかになる予定である。本研究課題が不採択であった場合には、研究計画に改善を施し、再度申請する予定である。

#### 2. 点検・評価

申請していた平成24年～25年度科学研究費補助金(若手B)研究課題「精神的不適應の予防・早期介入における促進・阻害要因の検討」が採択され、各年1,170,000円(直接経費900,000円、間接経費270,000円)の研究費を獲得した。本研究課題は、うつ病や不安障害などの予防・早期介入を実現するために、精神医療や臨床心理学的な支援などのメンタルヘルス・サービス利用における、促進・阻害要因について明らかにするものであり、臨床心理士・精神科医・精神保健福祉士を対象とした専門家調査と、大学生を対象とした調査が完了し、本年度の計画はすべて実行された。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

所属センターにおいては、個別に学生を指導するシステムにはなっていないが、大学院にて新たな教育分野である「予防教育科学」の授業を受講する機会があることや、本学における様々な特色を、諸学会や研究会等において学部生へ向けて発信する。

#### 2. 点検・評価

所属センターにおいては、個別に学生を指導するシステムにはなっていないが、大学院にて新たな教育分野である「予防教育科学」の授業を受講する機会があることや、本学における様々な特色を、諸学会や研究会等において学部生へ向けて発信した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①大学院「予防教育科学」の授業を、昨年度からさらに発展させ、円滑に進める。
- ②学部新規授業科目「予防教育科学と学校教育」の授業を円滑に進める。
- ③大学構内での様子などから、支援が必要と推察される学生には、積極的に声をかける。
- ④社会人としての礼儀(挨拶・言葉遣いなど)について手本となるよう、学生の前での言動に留意する。

#### 2. 点検・評価

- ①大学院「予防教育科学」の授業を、昨年度からさらに発展させ、円滑に進める。  
2012年度後期において、授業の内容や運営方法を改善した上で、シラバス通り授業を進行した。
- ②学部新規授業科目「予防教育科学と学校教育」の授業を円滑に進める。  
2012年度前期において、予定通り円滑に授業を進行した。
- ③大学構内での様子などから、支援が必要と推察される学生には、積極的に声をかける。  
昨年度と同様、支援が必要と推察される学生には、積極的に声をかけた。
- ④社会人としての礼儀(挨拶・言葉遣いなど)について手本となるよう、学生の前での言動に留意する。  
社会人としての礼儀(挨拶・言葉遣いなど)について手本となるよう、学生に対して積極的に声かけをした。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①予防教育に関する知見について、本学紀要をはじめ学会誌等に投稿するとともに、学会発表にて国内外の研究者と活発に意見交換を行う。
- ②科学研究費の申請が採択された場合には、24年度の研究計画について、社会に資する成果が得られるよう尽力する。

#### 2. 点検・評価

- ①予防教育に関する知見について、本学紀要をはじめ学会誌等に投稿するとともに、学会発表にて国内外の研究者と活発に意見交換を行う。  
予防教育のひとつである「自己信頼心(自信)の育成」の実践について、教育研究紀要に既に投稿済みである。また、学会等において、国内外の研究者との活発な意見交換を行った。
- ②科学研究費の申請が採択された場合には、24年度の研究計画について、社会に資する成果が得られるよう尽力する。  
科学研究費の申請が採択されたため、平成24年度の研究計画に基づいて、順調に研究を進行した。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

予防教育科学教育研究センター専任教員として、センター運営のさらなる円滑化へ向けて尽力する。

### 2. 点検・評価

予防教育科学センターの専任教員として、センター運営のさらなる円滑化へ向けて尽力した。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属小・中学校の教員から要請があれば、予防教育に関する指導・助言を行う。(附属学校)
- ②地域の学校と連携し、予防教育プログラムの実践・効果検証を進める。また、地域から予防教育に関する活動の要請があった場合には、積極的に協力していく。(社会連携)
- ③国内外の学術会議にて、予防教育における国際的な研究者らとともに、予防教育の今後のあり方について議論し交流を深める。(国際交流)

### 2. 点検・評価

- ①附属中学校との連携により、平成24年度中に予防教育を実施した。
- ②徳島県下の小学校と連携し、予防教育プログラムの実践・効果検証を予定通り進めた。また、地域から予防教育に関する研修の依頼を受けたため、既にこれらの活動に関しても積極的に協力した。
- ③国内の学会や、本学主催の国際専門家会議等において、予防教育における国際的な研究者らとともに、有効な予防教育のあり方について議論し、交流を深めた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)